

早期再分極症候群に対するシロスタゾールとベプリジルの併用療法の2症例における検討

篠原徹二 山口尊則 石井悠海 大坪豊和
岡田憲広 油布邦夫 中川幹子 高橋尚彦

下側壁誘導にJ波を伴う特発性心室細動(IVF)は、早期再分極症候群と呼ばれ、突然死予防のために植込み型除細動器(ICD)植込み術が必要とされる。しかし、頻回の心室細動(VF)出現に伴うICD作動はしばしば深刻な問題となる。VF出現抑制にはキニジン内服が効果的であることが報告されているが、内服に伴う副作用の問題もあり、早期再分極症候群に対する薬物療法ははまだ確立していない。症例1は19歳、男性。2011年11月、TVを見ていた際に突然心肺停止となった。Bystander CPRおよび自動体外式除細動器(AED)による電氣的除細動によって心拍が再開した後、当院へ緊急搬送された。下側壁誘導に明らかなJ波を認め、早期再分極症候群によるIVFの診断でICD植込み術を施行。2013年2月にVFが再発したため、シロスタゾールとベプリジルの併用療法を開始した。以降、VFの再発は抑えられている。症例2は46歳、男性。2005年7月、突然意識消失・心肺停止状態となり、ICD植込み術を施行。その後頻回にVFが出現するため、シロスタゾールとベプリジルの併用療法が開始された。しばらくVFの再発は抑えられていたが、2012年3月に突然VFが出現し頻回にICD作動するようになった。イソプロテレノール少量持続点滴にて抑制に成功したが、中止するとVFが再発した。このため、ベプリジルをキニジンに変更したところ、VFは出現しなくなった。今回、ICD植込み術後にVFが再発した早期再分極症候群2症例に対して、シロスタゾールとベプリジルの併用療法を行った。1例は再発抑制することができ、もう1例は長期経過中に抑制できなくなったものの、キニジンへの変更が有効であった。シロスタゾールとベプリジルの併用療法は、一部の早期再分極症候群患者において、VF発生抑制に有効な治療方法であると考えられる。ただし、この治療で十分に抑制できないときには、キニジンへの内服変更が有用であることが示唆された。

Keywords

- 早期再分極症候群
- シロスタゾール
- ベプリジル
- 特発性心室細動

大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座
(〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地)

Effect of Combination Therapy of Cilostazol and Bepridil Against 2 Patients with Early Repolarization Syndrome
Tetsuji Shinohara, Takanori Yamaguchi, Yuumi Ishii, Toyokazu Ootsubo, Norihiro Okada, Kunio Yufu, Mikiko Nakagawa, Naohiko Takahashi